

去る5月、タカ派で知られるイスラエルのネタニヤフ首相が来日し、やはりタカ派の安倍首相と会談、両国の防衛協力を強化することで合意した。これまで日本は中東への石油依存から親アラブのイメージが強かっただけに、大きく山が動いたと言えよう。すでに日本政府は、イスラエルも購入を予定する最新鋭戦闘機F35に使われる日本製部品の輸出を、武器輸出三原則の例外として認めることを決定し、紛争当事国などへの輸出を禁じていた同原則の例外扱いとした。協力拡大は防衛部門だけでなく経済、文化など多岐にわたり、イスラエルが東日本大震災後に日本に課した輸入規制の撤廃も含まれ、風評被害に苦しむ被災地の人々にとって朗報となる。これら一連の動きは言うまでもなく、北朝鮮~イラン~シリアを巡っての核開発やミサイルなどの軍事技術拡散に対するものであることは明白だ。

極東の国、日本にとって、“極西の国イスラエル”やユダヤ人は、日本人になれ染みが薄い印象があるが決してそうではない。先の震災でのイスラエル医師団による長きにわたる宮城県南三陸町での奉仕は記憶に新しい。日露戦争でも彼らは巨額の外債を引き受け、日本を後押しした。いっぽうで日本も、ナチスから逃れて来た2万人ものユダヤ人を救った樋口季一郎 大佐や東條英機などの美談が多くあり、日猶（日本とユダヤ）には不思議な縁が見受けられる。韓国と中国にはサッパリ評判の悪い日本ではあるが、「神の民」であるイスラエルとは良好なのだ。今回の合意にも、今のところアラブ側が珍しく反発していないが、“神の手”が動いたのだろうか。聖書には

「神がお前に天の露と地の肥沃、豊かな穀物と新しいぶどう酒をお与えになるように。

国々の民はお前に仕え、国民はお前を伏し拝み、（中略）お前を呪う者は呪われ、

お前を祝福する者は祝福されるように。」創世記 27章 28-29節

とイスラエルへの祝福がハッキリ書かれている。したがって日本が彼らと仲良くやるのは素晴らしいことだ。だがそれは、集団的自衛権を云々することや、カブクで入植者住宅を建設することなどは全く無関係である。そうではなくイスラエルこそがまずキリストを信じ、「キリストの平和」を実践し、他国の模範となることこそが、本当の祝福なのだ。キリスト抜きで平和など愚かな空論に過ぎない。日本とイスラエルが共に手を携え、心からキリストを信じ、共に神の祝福に与るよう祈って止まない。

2014-6-22

